

全国から451点の作品が集合 版画フォーラム2012

版画フォーラム2012和紙の里ひがしちぶ展が、和紙の里において6月23日から30日まで開催されました。

今回で9回目となるこの版画展に、全国およびブルガリアから合わせて282人、451点の応募がありました。この展覧会の特徴は、出品作品すべてを展示し、優秀な作品にはスポンサーからの賞を贈り、入賞作品は東秩父村や東京（銀座）、小川町、嵐山町、皆野町、寄居町などで開催される協賛展に再展示されることです。また、小学生から日展作家まで、幅広い層の作品が展示されることでも知られています。



▲版画フォーラム大賞
愛知県 蟹江正夫さんの作品
「天空の城」



▲東小学校の児童の作品も展示されました

々が鑑賞に訪れ、連日にぎわいを見せていました。再展示までの来場者を計算に入れると、大変多くの方々に見ていただける展覧会になっています。特に、展覧会に合わせて開催さ

れる実演のシルクスクリーンや銅版画の一種のメゾチントには、多くの方々が関心を示していました。

この展覧会は、版画フォーラム実行委員会が主催し、村をはじめ、県など多くの機関や企業が後援しています。

全国に版画展は数多くありますが、和紙の里展のような特徴を持つ展覧会は、他に類例を見ないと、関係者は語っています。



成長への栄養剤をいただいた じゃがいも掘り体験

農業委員会（飯野暁会長）の委員の皆さまのご好意により、園児にじゃがいも掘りの体験をさせていただきました。

園児たちは、会長さんにじゃがいも掘りについてのお話をしていたら、あらかじめ万能を入れていただいた株を掘りはじめました。園児たちは、それぞれの思いを夢中になって掘り続け、大きなじゃがいもが顔をのぞかせるとうれしそうに手



にとっていました。

体験から学ぶことのひとつに「ああ、こうすればこのようになるのか」という学びがあります。最初は上手に掘れない子も体験を重ねることで株のまわり全体を掘るとたくさんじゃがいもを手にすることができるとを学びました。

農業委員の皆さまのご理解とご支援のもとで、将来、血となり肉となる知的な学びとじゃがいもを手にした喜びを実感し、感性を育みました。

城山保育園長